

令和3年度第1回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和3年7月25日（日）14時～16時
場 所	松戸市立博物館 実習室
出席者	<p>（委員）</p> <p>委員 西郡 泰樹 委員 大西 一樹 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 濱島 正士 委員 佐藤 孝之 委員 小島 孝夫 委員 日高 慎</p> <p>（事務局）</p> <p>教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 渡辺 優樹 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 6名</p>
議 題	<p>1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について</p> <p>2. 館蔵資料展「小金城・根木内城＋郷土玩具リターンズ」内覧</p>
公開 非公開	公開（傍聴者0人）
配布資料	<p>会議次第</p> <p>【資料】松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）</p> <p>【当日資料】庁内ワーキング意見</p> <p>【その他】館蔵資料展チラシ、年間行事案内</p>

1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について

(1) 計画策定期間及びシンポジウムについて報告した。

事務局：計画策定期間を今年度から令和 4 年度へ延期した。理由は、本計画の上位計画である「松戸市文化財地域活用保存計画」が令和 5 年度より施行されることを受けて、足並みを揃えて進めていくためである。今後のスケジュールとして、今年度中に計画の形を仕上げ、来年度はパブリックコメントを残すだけ、というスケジュールにしたいと思っている。

シンポジウムについては、今年度の開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とすることにした。

また、令和 3 年 4 月から 5 月にかけて、常設展示のアンケート調査を対面式で実施した。本アンケート結果は、計画書の参考資料として掲載したいと考えている。アンケート結果については、次回の協議会で報告させていただく。

(2) 新旧対照表、松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について第 1 章～第 3 章（P1～P35）まで事務局から説明した。

委員：課題に対する、事業目標の具体的な取り組みを現状と課題のページに掲載してはいかがか。

事務局：検討します。

委員：地方教育行政法について、博物館に影響はあるか。博物館が、教育委員会から市長部局へ移動しているケースがあるが。

収蔵施設は、学校で余裕があった場合、教室を検討しているところもあるが、空間確保の観点だけで考えてはいけないと思う。様々な要素を検討したうえで、考えていくべきである。

事務局：文化財の管理等については、市長部局と教育委員会で話をしており、市長とも協議している。

教育委員会全体として未来 10 年間の基本方針的な役割の「学びの松戸モデル」がある。本方針中で、文化財について、教育委員会としての意思表示をしている。文化関係を市長部局が、引き入れたいという気持ちはある。

ただし、この中に博物館は入っていない。今後も本議論は継続していく。

2 点目の収蔵施設の件は、一部で、小学校の学校で余裕があった場合、教

室を収蔵施設として機能させ、小学生が文化財を身近に触れられるよう、歴史を学びやすい新たなモデルケースとして始めたところである。

それと同時にきちんとした収蔵施設は、非常に重要と考える。こういった観点からも内部で議論しているところである。

委員：P8 の外部との連携について、もっと小学生や友の会などの団体と連携を膨らませてほしい。アワードなども全市的に広めてほしい。また、市内の大学との連携もできるのではないかと。千葉大学の教授で、松戸市の景観委員にもなっている方なら、博物館と連携が図れるのではないかと考える。

(3) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）について第4章（P36～）、こども歴史体験ゾーンについて事務局から説明した。

委員：（仮称）は、いつまでつけるのか。

事務局：今年度中には、正式決定したいと考えている。

委員：別冊は、計画の中にはいるのか。

事務局：計画の一部として本別冊を含めるように考えている。

委員：別冊の2.「展示と運営の基本的な考え方」について、(5)体験プログラムの開発とあるが、どのように教員と一緒に共同開発していくつもりなのか。また、どのくらい進んでいるものなのか。

GIGA スクール構想が進んでいる中で、タブレットなどを活用した取り組みなども検討できないか。

事務局：先生方から、博物館のこういった内容をくみ取ってこどもたちに伝えていきたいかを教えていただき、どうやっていけば良いか、一緒に考えていきたい。プログラムなどは、きちんと意見等を還元した形で進めたいと思っている。

昨年度の学習資料展では、展示解説動画なども作製したが、こういった視点からも進められればよいと思っている。

委員：こども歴史体験ゾーンも定期的に内容を変えていかないと飽きてしまう。また、デジタル技術（VR、AR、QR コードなど）を活用した対応なども進めていくべきである。

こどもの視点で、未来を見据えて進めてほしいと思う。

委員：こども歴史体験ゾーンは、将来的には増築していくべきだと思う。

その内容を本計画にも記載する必要があると思う。現在記載の内容で終わりというわけにはいかないと思う。

委員：こども歴史体験ゾーンという名前は、こどもをターゲットにすると、少し堅いと思う。こどもミュージアムでも良いではないか。

ICTもなんとか検討していったって、更新しながら進めていただき、デジタル化を見て、そこから本物を見に博物館へ来てもらえるように考えてほしい。

委員：未就学児などが来館した場合、お母さんだけで展示見学ができることを検討しているか。

事務局：こども歴史体験ゾーンでは、兄弟や親子で体験やさわってみて、わからないことなどを教えてあげることなども想定している。

委員：未就学児もターゲットに入れるべきだと思う。歴史や文化にまず触れることが重要だと思う。幅広く対応できるように考えてほしい。

本計画は、写真も入って、非常にわかりやすいものになったと思う。幅広く周知し、いろんな方に見てほしいと思う。

委員：パブリックコメントについて、ホームページだけの掲載だとなかなか見ていただけない。きちんと色んな方にみていただいて、意見をもらうべきだと思う。やるだけにならないよう工夫して考えてほしい。

(4) 当日資料をもとに、庁内ワーキングの意見を説明した。

2. 館蔵資料展「小金城・根木内城＋郷土玩具リターンズ」内覧

委員：非常にカラフルでじっくり見たらすごく楽しめる内容となっていた。

展示を見ていた子どもがお母さんに、写真の内容を聞いたりしていた。

やり方によっては、子どもが興味を持つのだと思った。

委員：郷土玩具は、見てもらう、感じてもらう内容でとても良かった。

委員：あれだけの資料を使いこなすことができるのは、この博物館が蓄積してきたものだと思う。

委員：作ってみようなど、体験できる機会が子どもにとって興味を持つのだと思う。

委員：郷土玩具については、大体いつくらいのものなのか記載があると良

かった。小金城や根木内城は、地域の小学校などに絡めていけると良いと思う。

委員：郷土玩具は、映像があった。小金城と根木内城は映像資料などの工夫があると良かった。文字を読むのが苦しい場面もあった。

委員：小金城と根木内城は文書が中心で、難しかった。時間をかけてみれば、理解できるのかもしれない。2つの展示で、バランスがとれているのではないかと思った。

3. その他

次回の博物館協議会は、令和3年11月に開催を検討している。